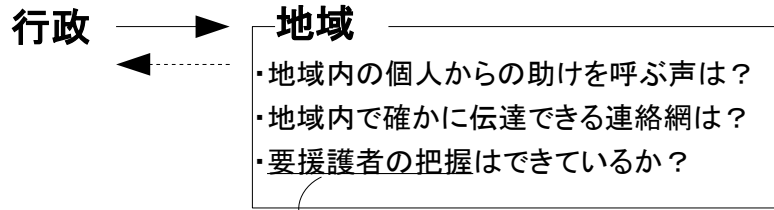


# 自然災害に立ち向かう地域社会をつくる

セミナーチーム

## ・連絡(情報伝達)の手段



民生委員(十分でない?)

区とのパイプ不十分?  
把握できていない

地域内の  
(共助)の  
防災体制がある!

## ・要援護者の把握

- ・個人情報保護の壁
- ・老人クラブ(敬老会)の名簿活用

## ・地域内のパトロール(現状把握)

- ・消防団(人員不足)
- ・危険箇所を事前に把握しておくこともある
- ・地域の防災体制の弱点を知る
- ・知っている人は見に行っているが何ともできない

連絡体制がしっかりしていれば...

## ・東海豪雨の反省

- ・橋が落ち、危険のため、住民で通行止め(うかい案内)をした

地域から行政へ連絡をした

指示待ちより地域の主体性が大事!

火災(消防)でも同じこと!

## ・避難場所、方法

- ・距離が長い。見直しがいる。
- ・地域で決める。地域の避難所も

河川の横断は危険!

## ・自主防災会(組織)の役割

- ・タンク、ポリタンク、ジャッキ...etc

ある場所は分かる。でもそれを使えるか??

(皆で確認済の区もある)

- ・地域の主体的な防災訓練を実施

セットで実施しては  
(効果的なやり方で)

## ・意識を高めるセミナーの開催

- ・もっと地区単位で、住民に伝えていくことも必要か
  - ・300人→3000人、5000人集める
- もしくは  
きめ細かく!

片田先生のいう主体的な自助

地域への浸透  
個人の意識への浸透 } が必要!

そのために

- ・人が集まる地域行事を有効に活用
- ・消防署との連携、協力(警察も)

やはり

地域の { コミュニティ  
人と人とのつながり } が大切

# 自然災害に立ち向かう地域社会をつくる

情報発信チーム

## 豪雨

## 地震

## 台風

### 課題

#### 地域により危険箇所が違う

昭和用水が溢れ道路が冠水する

低地、水田など冠水する場所が町内にかなりある

垣田集会場近くの道路が冠水することがあった

荒井の堰は川が集中しているので心配

#### 避難場所・連絡網

火災発生時の対応避難の対応が決まっていない

家屋の耐震対策が不十分

#### 地域での連絡網

#### 停電時の対策

#### 非常用品の準備

停電が起きやすい区内の役員間の伝達が未定

行政からの連絡待ちではおそい



#### 地域毎に点検・調査が必要

#### 地域での取組みが必要

地域毎で再点検・調査する。今までに被害があったところや想定できるところを行政に報告する。

危険箇所の再点検  
要援護者の把握  
避難の判断基準

#### 地域で確立することが必要

地域の避難訓練が必要

連絡網の整備が必要

帰宅ルートマップ  
町外の連絡先の確保

非常用品の確保  
簡単な工具の準備

正確な情報の確保

停電対策  
(電池、ろうそく、カセットコンロの準備等)



#### 行政に報告、整理

正確な情報の提供・・・行政

自分の身は自分で守る

# 自然災害に立ち向かう地域社会をつくる

TVの世界、よその話？

立ち向かえない

隣の人が生きているかどうか

行政からの連絡待ちではおそい

地域毎に災害が違っている

町全体の避難場所を知る、見直す

危険箇所の確認

- ・区民同士のつながりを深める行事の企画
- ・地域防災組織を機能するように役員、団体に役割分担に参加してもらう
- ・広報の仕方を徹底する

- ①意識の向上
  - ②区全体に取り組む
- ※防災会とかグループ中心でなく区長中心で

現状 ——— 問題点

若い世代、隣の人が誰か分からない

災害時、行政には頼れない 頼るべきではない

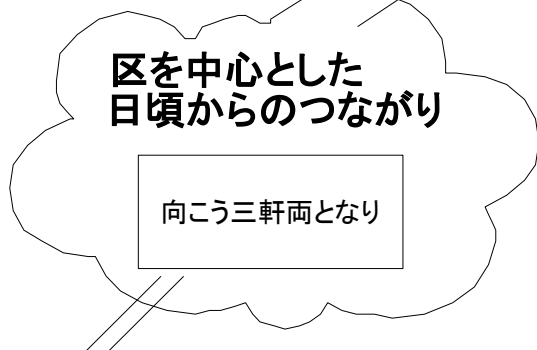
過去の災害時(台風、大雨)自分がどう対応したのか

伊勢湾台風

自分たちのことは自分で！！

帰宅困難者がたくさん出たら！？

地域で助け合う



家族のつながり

日頃からの備え 道具

訓練は

想定できることに備える訓練

例えば・・・炊き出し、物干ざおとシャツでタンカ

地域に合った訓練

「一次避難方法」 地区(小さな地域)毎に方法を考える必要がある

各地区の集会所 学共(学供)

①一次避難場所

②避難所